

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471000253		
法人名	長茂会		
事業所名	グループホーム わらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦字古里の上4689-1		
自己評価作成日	平成24年8月16日	評価結果市町提出日	平成24年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2471000253-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 24 年 9 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

役割を自主的に持って頂けるよう、炊事や洗濯以外にも選択の幅を広げるために、力を入れている家庭菜園では、種まきから食卓に上がるまで、作業一つひとつの瞬間に生き生きとした素敵な表情が溢れています。その他に、いつでも気軽に面会の出来る雰囲気作りや、地元の祭り見学や思い出の場所へのドライブへ出かけ、これまでの繋がりを大切にしています。また、部屋からは、全室が尾鷲湾を眼下に望む、周りの自然を生かした四季折々の景色を楽しむ事ができ、笑顔の絶えない明るい環境の中で、生甲斐を持って生活をして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の眼下には尾鷲湾が一面に広がり、大変景観がよく、周りが緑に囲まれた静かな環境の中にある。「自分の親として」という基本理念のもと、施設長をはじめ職員達の笑顔が印象的で、明るく穏やかな雰囲気のホームの中で、利用者たちはゆったりと落ち着いた生活を楽しんでいる様子である。事業所には菜園があり、利用者と共に野菜を作り、そこで採れた四季折々の野菜を食卓にのせて食事を楽しみ、そうした日常生活の中で生きがいや楽しみ事を増やしていく取り組みにも力が入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分の親(かけがえのない人)として」の心を常に念頭におき、思い出の場所や地域の祭りにドライブへ出かけ、かけがいのない地域での生活や人との繋がりを大切にしている。	「自分の親として」の心を基本理念とし、毎日の申し送りで唱和する等しながら、職員間で共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や祭りへの参加、法人主催の地域清掃ボランティアや地域交流運動会を通じ交流を図っている。	地域で行なわれる祭り等へ出来るだけ参加している。法人主催の地域交流運動会、文化祭等へは沢山の地域の人達の参加があり、そうした取り組みを通して地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2471000253-00&PrefCd=24&VersionCd=022	法人全体での介護研修や地域の中学校の福祉体験学習、介護者対象の介護教室などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じ、ご利用者やサービスの状況を報告し、サービス以外にも防災や地域の情報など意見交流を行い、サービスの向上を図っている。介護福祉に対する質問への回答など相互協力も図っている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に行われ、事業所の現況報告や行事の協議等を行っている。様々な地域情報の交換も出来、事業所の地域への浸透にも役割を果たしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は勿論、市や地域包括支援センターや民生委員の方々などに連絡をとり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市及び包括支援センターの担当者に参加してもらっている。市も事業所の運営に協力的で、日常的に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を毎年4月に発足し身体拘束等の排除マニュアルを作成し共有している。日中は玄関の施錠は行っていない。	身体拘束等の排除マニュアルを作成すると共に、身体拘束廃止委員会を設置している。また、職員研修なども行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論、言葉による精神的虐待についても、職員同士が注意しつつ防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用されている方は見えないが、研修や勉強会などへの参加を通じて必要ならば、活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族、親族の方々と十分な説明を行い、理解納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等の意見や要望は、普段のご利用者の会話の中や、面会や電話などで取り上げ、また意見箱を玄関に設置している。運営推進会議の中で意見交流を行い反映している。	運営推進会議に家族の代表も参加し、事業所運営に意見が反映できるようにしている。又、意見箱を玄関に設置し、特に面会時には必ずお茶を出す等して、意見を出してもらい易いよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送りにおいて意見や提案を交わし運営に反映させている。何でも記入出来る申し送りノートも作成している。	職員会議での意見交換や申し送りノートになんでも意見を記入してもらいようにし、職員の意見を運営に生かしている。法人の代表者会議へ管理者が出席し、職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇願など柔軟に対応し、職員間でのアイデアや提案を代表者会議で検討することで、やりがいなど、職員が向上心を持って働ける職場整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内の研修は勿論、研修を受ける機会があれば、出来る範囲で参加し、また職員間で共有し格差が生まれないよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会への参加や、同じ地域の同業者への、施設見学受け入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や面接にてできる限り多くの要望や情報を聴き取りの為にコミュニケーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査の際、本人の希望は勿論、家族の思いも取り入れ、介護方針を決め多くの情報を聴き取り、共有することによって、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の趣味嗜好、困っている事や不安など思いを聴き取り、担当者会議などにより、必要なサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念の「自分の親として」の心を常に念頭におき、共に暮らす者として、「こだわり」や「苦しみ」、「不安」、「喜び」などを共感し理解でき、支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や面会し易い雰囲気作りを行い、本人を含めた意見交換に加え、定期的な連絡や必要に応じた連絡を行い、ご利用者の出来る限り新しい状況を、共有出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	尾鷲市内だけでなく同広域である海山町にもドライブに出かけ、出来るだけ多くの馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	自宅や馴染みの美容院へ行く支援や地元の公園に行く等出来るだけ馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その季節に合った風景や行事の見物や、菜園での野菜作りの作業や収穫した野菜を、皆で調理して食卓に並べるなど、共同生活を楽しんで頂けるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの連絡、又、病院や施設からの相談においては、その都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ヒアリングで一人ひとりの思い・希望・意向の把握に努め、意思表示の困難な方は、本人との日常会話や面会の方意見交換により集めた情報から、本人視点に立って検討を行っている。	センター方式を活用する等しながらアセスメント項目を充実させ、本人・家族の思い・意向をより深く掴み、ケアに生かせるように努めている。本人との日常会話や面会の方との意見交換も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査によるアセスメント以外に、本人はもちろん面会に来られた知人、友人、親族の方々からの情報を多く得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握はもとより、毎日のバイタルチェックによる健康管理、役割を持って頂きやすくするため、有する力の把握をに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「自分の親として」の心を常に念頭におき、本人の意向や変化を把握し、家族との定期的・適時の連絡で得た意見を反映し、全職員が対応を話し合い、介護計画を作成している。	本人、家族の意見をしっかり聞き、職員で話し合っってケアプランを作成している。3ヶ月に1回の定期的の見直しと共に、随時の見直しも行ない、常に本人の意向や変化に即したケアプランになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録を残すことにより、それをもとに気づいた事や改善方法などを話し合い、連絡ノートを活用し実行している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院や自宅、病院への送迎及び付添い、自然に囲まれた環境を十分に活用し、体で四季を感じとれる様、散歩やドライブを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署員立ち会いの防災訓練や老人会や各ボランティアによる慰問、運営推進会議による地域の方々との意見交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じたかかりつけ医や協力医療機関を利用し、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に応じたかかりつけ医や眼科、整形等の専門医療機関への受診支援を行っている。又、協力医療機関には往診をしてもらい、適切な医療を受けられるよう支援を行なっている。受診結果は、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人診療所より、週に1回往診があり、併設の看護婦からアドバイスを貰うことで、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報交換を怠らず、利用者が寂しい気持ちにならないよう頻繁に見舞いに行き、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらかじめ本人や家族の意向を聞き、職員全員が方針を共有し、定期連絡にくわえ、適宜連絡を家族に行っている。	看取りは、原則行なわない方針だが、家族の希望により、職員、医師と方針を共有しながら柔軟に対応している。状況に応じ、法人内の特養ホーム等への入所支援も行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故緊急時の対応マニュアルを作成し皆で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に伴い、消防署立ち会いの避難訓練や消火訓練、地域合同、法人合同の防災訓練を行っている。	地震、夜間等様々な災害を想定し、毎月1回防災訓練を行なっている。また、地域の防災訓練にも参加し、事業所は地域の避難場所にもなっている。一週間分の食糧の備蓄も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保のため、失敗や異常行動の際には大声を出さず、さりげないケアを心がけている。	書類は鍵の掛かったロッカーに保管している。特に、失敗や異常行動の際、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の選択肢を減らしてしまうような質問などは避け、本人の意思を尊重した生活を送っていただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、買い物、外出、衣類、整容など希望に沿った支援行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装や化粧はもちろん、地域の理容店が毎月来所しており、利用して頂く事が出来る。また、希望があれば、馴染みの美容院まで送迎付き添いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食を複数献立にし、選択メニューを導入している。菜園の収穫時期には、漬物など昔ながらの品を作り思い出話に花を咲かせながら、本人の意思を尊重しつつ出来る範囲で準備や片づけをして頂いている。	昼食を複数の献立とし、本人が選択出来るようにしている。事業所の菜園で収穫した野菜で、利用者と一緒に漬物を作ったりしている。時には外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューに関しては栄養士が作成し、それを元に職員が本人にあった形状にしている。また、自分で水分摂取が出来ない方などには定期的に水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがいや食後の歯磨きを推進しており見守り介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをトイレ誘導を行い便器に座って気持ちよく排泄できるように支援を行っている。	排泄チェック表等で一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による管理を行っており、水分量の調整、場合によっては医療機関への相談し、服薬などにて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が出来るように声かけを行っている。	出来るだけ本人の希望やタイミングに合わせて、入浴出来るようにしている。入浴を拒否する利用者には、入浴の勧め方を工夫しながら、3日に一回は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者により安眠、休息の時間にばらつきがあり、眠れない利用者に対しては、なるべく眠剤に頼ることなく、お茶や水を飲みながらお話をするなどして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の服薬説明書をファイリングし職員がいつでも情報を共有出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳や掃除・洗濯など、それぞれ得意な事を、本人の意思で行って頂き、カラオケ、レクリエーションや園芸など、その人に合ったものを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然に囲まれた環境を活かして、普段から散歩はよく行っている。また、季節の花の観賞や回転ずしなどの食事会にも、ドライブをかねて出かけて頂けるように支援している。	日常、散歩にはよく行っている。花見等四季折々の外出支援や地域のイベント等へは出来るだけ出掛けるようにしている。介護度が高くなる等により、外出頻度が少なくなってきた利用者もいる。	介護度が高くなる等により、外出頻度が少なくなってきた利用者の、個別の思いに添った外出支援も今後検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談したうえで金額を決め、所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由に使用できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルには出来る限り季節の草花などを置き、四季を感じていただけるよう努めている。また、会話のトーンやテレビの音量、カーテンの開閉などにも配慮している。	菜園で作った季節の花をテーブルに飾ったりして、季節感を大切にしている。行事の時の写真や利用者と一緒に作った折り紙等を廊下に掲示し、テレビの音量等にも配慮しながら、親しみ易く、落ち着いて過ごせるような工夫をしている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやベンチ・ガーデンテーブルセットなどを各所に設置し、利用者ごとにお気に入りのスペースがあり、くつろがれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの物を、持ち込まれている方も多く、本人や家族の希望にそった配置を心掛けている。	各居室のベランダからは尾鷲湾が見渡せ、明るく清潔感のある部屋となっている。本人の馴染みの箆笥や椅子、テレビ等が置かれ、居心地よく、落ち着いて過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの有する力に合わせ、居室からトイレや食堂までの距離に配慮した部屋割りや、家具の配置などを、ご利用者や家族と相談して決め、自立した生活が送れるように工夫している。		